



須藤 典夫 議員

実態把握に

町民の声を

須藤典夫議員 町の人口減少に歯止めがかからない状況にあるが、特に注視しなければならぬのが、「転出」

「転入」の動向ではないかと思われる。転入、転入の推移はこの3年間だけでも転出者が548人と転入者をはるかに上回る数になっている。

「平成27年版金山町人口ビジョン」では雇用の創出、転出していった町民のUターンなどで転出超過は縮小し、平成42年には「差」は

ゼロになると仮定しているが大丈夫か。

川崎政策財政監 平成42年には差がゼロになるという目標は、現実として厳しい目標になってきている。

現在取り組んでいる事業として「金山CC RC構想事業」がある。これは、都市に集中している人口を地方に呼び戻す「現役活躍世代のふるさと回帰」を

目指すもので、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部や、東京金山会の方々と意見交換を交わしながら進めている。総合戦略の評価が必要となる平成31年度末

過疎化施策の棚卸が必要では

回答 マンパワー（人的資源）に活路

の時点で住民アンケートの実施も考えている。

ガン探知犬は

期待に応えたか

須藤議員 ガン探知犬による検診研究事業の結果と課題は。

五十嵐健康福祉課長

研究事業の対象である40歳以上の受診者は全部で1614人、その内925人(57.3%)の皆さんから研究事業に検体の提供を受けた。現段階でガンと確定された方は一人。9人はガンと特定はされていないが今後も経過観察する必要がある。残りの8人についてはこれから精密検査を受ける予定になっている。

本研究事業で何らかのガンの疑いがあると



「祝う会」で再会を喜ぶ

環境や費用面などできるだけ負担を軽減する方策を講じる必要があると考え、平成30年度予算に予定している。

成人式を町民目線で話し合っ

ては

須藤議員 町の成人式の持ち方については式典は従来どおり8月14日で行うという見解が町と教育委員会から示されている

が、「祝う会」も含めて今年成人を迎える方々、その親御さんからの意見を聞く機会を持つことは

できないのか。

教育長 町の成人式は、成人を迎える年に行うのが相応しいという考えに変わりはなく、金山町では、年内の集まりやすい時期や服装などを考慮し、日本の伝統文化の一つとして行なってきた。成人式は、式典として行うものであり、町が言っているように「祝う会」とは別のことと考えている。「祝う会」については、昨年末成年の飲酒もあったので、その開催の有無も含め、今年成人式実行委員会と協議を行う。もし開催することになったら、アルコールは出さないと考えている。

公契約条例の制定と町入札制度の改革を

回答 県関連条例を研究し、今後につなげる



高橋 浩樹 議員

公契約条例について

高橋浩樹議員 企業と雇用関係のない大工・職人として働く方は労働法の対象とならず、労働環境が不安定と言われており議論の枠外に取り残されている。県では人手不足対策、人材確保支援策を講じているが、対象となる若手職人はいない。町が賃金条項を盛り込んだ公契約条例を制定する事で少しでも安定した職業に近づけて行く事が出来るのでは。

川崎政策財政監 賃金条項を盛り込んだ公契約条例は、昨年2月現在、全国で人口規模の大きい20団体ほどが制

定している。今後、当町と類似規模の自治体の動向を注視し、県が定める「山形県公共調達基本条例」なども参考にしながら、その必要性や上位法との整合性などを研究したい。

入札制度について

高橋議員

県は公共調達基本条例を制定し、採算を無視した過度な低入札を防ぐとともに、品質及び価格の適正を確保する取り組みを進めており、県と整合性を図るべきでは。

政策財政監

町の公契約事務は、県が制定した公共調達基本条例を参考に行っている。工事契約約款や業務委託契約約款も県に準拠し、「前払い金・中間払い金制度」の導入や「予定価格設定の際の根拠のない一律の歩切」を行わない等、契約の相手方が雇用する労働者の環境改善につながるよう対応している。

平成30年度当初予算

でも、建設工事の労務単価等は、地域性や工種等を考慮した県公共工事積算単価に準拠している。また、委託料の業者賃金単価を明確にし、適正な工事価格・業務価格にすることで契約相手方の労務者の賃金水準の確保に努めている。

高橋議員

平成29年度発注の街なか公営住宅入札は、通常より低価格で落札されたと聞かれた。予定価格は、引上げられた県の設計労務単価が反映されているのか。最低価格制限制度を採り入れないと適正な価格での公共工事の発注が出来ないので

政策財政監

積算労務単価は、県に準拠している。最低制限価格については、土木工事1億円を超える工事、建築工事は5千万円を超える工事しか対象となっていない。詳細を精査してみなければ解らないが、落

賃金アップ・待遇改善は建設業界全体の課題です。ストップ!! 賃の連鎖!!

札率は低いものではないと認識しているが、今後は詳細、内容を精査し、県の状況を加味しながら町の方向性に繋げたい。

介護人材不足について

高橋議員

みすぎ荘役員との意見交換会の中では、慢性的な介護人材不足により、2025年にはどうなるのか懸念していた。

介護ロボットを導入し、作業負担の軽減に取り組まなければ、介護職員の確保は難しい。町サイドから介護ロボットの研修を提案し、介護ロボットの導入を検討しては。

五十嵐健康福祉課長

みすぎ荘で職員研修として計画している。「国際福祉機器展」は、自助具から最先端技術を活用した介護ロボット・福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めたアジア最大規模の国際展示会である。町も、それらの情報を共有し、研修の提案・計画等を支援したい。また、重点機器部分の技術が確立され、導入を検討できるようなら、情報をみすぎ荘と共有し、国、県の制度を活用しながら人材不足への対応を検討したい。